

週刊 タバコの正体

Vol.28

第28巻 (2014.4.9～2014.7.16)

第1話	タバコは吸わない、いらない
第2話	いったい、何のために
第3話	タバコの罨と勘違い
第4話	ニコチン依存症の実態
第5話	タバコの現実
第6話	タバコ病と死亡者数
第7話	近くで吸わないで
第8話	煙のない受動喫煙
第9話	分煙と禁煙
第10話	町全体が禁煙
第11話	黒い歯ぐきと黒い歯
第12話	ただなんとなく
第13話	喫煙者は不利
第14話	タバコは売れる
第15話	日本はタバコに依存している

週刊 タバコの正体

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。全校をあげて君たちを歓迎し、和工生として充実した高校生活が送れるよう応援します。一方、在校生のみなさんは、ひとつ学年があがった自覚を持って、後輩に良い見本を示せるよう頑張ってください。

先輩が“良い手本”を示せば、後輩にはそれが「和工の常識」と映ります。そして、この繰り返しが和工の伝統や歴史となって、いよいよ今年創立100周年を迎えます。そんな「和工の常識」の一つが、「タバコは吸わない、いらない」という態度なのです。

下の表をよく見て下さい。タバコにはこんなにいっぱい有害物質が詰まっているのですから、タバコは、「百害あって一利なし」と言われても当然で、和工生の誰もが知っている常識です。

産業デザイン科 奥田 恭久

紙巻たばこ煙有害物質の主流煙と副流煙中の含有量

※主流煙:本人が吸い込む煙 副流煙:まわりの人が吸わされる煙

	主な影響(症状)	主流煙(MS)	副流煙(SS)	SS/MS 比
●発がん物質(ng/本)				
ベンゾ(a)ピレン	発ガン物質	20-40	68-136	3.4
ジメチルニトロソアミン		5.7-43	680-823	19-129
メチルエチルニトロソアミン		0.4-5.9	9.4-30	5-25
ジエチルニトロソアミン		1.3-3.8	8.2-73	2-56
N-ニトロソノルニコチン		100-550	500-2750	5
4-(N-メチル-N-ニトロソアミノ)-1-(3-ピリジル)-1-ブタン		80-220	800-2200	10
ニトロソピロリジン		5.1-22	204-387	9-76
発ガン物質キノリン		1700	18000	11
メチルキノリン類		700	8000	11
ヒドラジン		32	96	3
2-ナフチルアミン		1.7	67	39
4-アミノビフェニール		4.6	140	30
O-トルイジン		160	3000	19
●その他の有害物質(mg/本)				
タール(総称として)		10.2	34.5	3.4
ニコチン	心筋梗塞、狭心症	0.46	1.27	2.8
アンモニア	ニコチンをガス化	0.16	7.4	46
一酸化炭素	全身的な酸素欠乏	31.4	148	4.7
二酸化炭素		63.5	79.5	1.3
窒素酸化物	心血管疾患	0.014	0.051	3.6
フェノール類	繊毛傷害物質	0.228	0.603	2.6

『厚生労働省の最新たばこ情報』 サイトから

週刊 タバコの正体

皆さん、タバコの値段を知っていますか。20本入り一箱が430円～460円もします。でも一本あたりにすると20円ちょっとなので、一本や二本を吸ったところで何の負担も感じないでしょう。

ところが、ところが、興味本位で一本か二本を吸ってしまつと、数日のうちにその一箱はなくなってしまいます。すると、次の一箱を買わずにいられません。460円を出して買った今度の一箱はもっと早い期間でなくなってしまいます。こうなると、一日か二日おきに460円が必要になってしまいます。仮に、二日に一度460円を出してタバコを買うと一ヵ月で7000円も必要です。つまり、毎月7000円が煙となって消えてしまうのです。

今、タバコに全く興味がない人にとっては、毎月7000円も出して毒のかたまりの煙を吸い込むなんて、本当に馬鹿げているとしか思えないのですが、一旦タバコを吸い始めてしまった人にとっては、そんな冷静な判断ができなくなってしまうのです。たとえ、タバコ一箱が1000円になつても、買い続けることになるかもしれません。こんな状態になっている人は「ニコチン依存症」と呼ばれ、毎日毎日、来る日も来る日も、タバコを吸わずに生活できないのです。

もしも、今「ニコチン依存症」になっていたとすると、この先何十年タバコを買い続けなければならないのでしょうか。そうなると、その総額はいくらになるでしょうか。このままタバコの値段が上がらなかったとしても70歳ぐらいまで50年間買い続けると、 $7000円 \times 12カ月 \times 50年 = 420万円$ です。

420万円もつぎ込んで、一体何を得る事ができるのでしょうか。……何も得るものはありません。それどころか自分の身体が犠牲となるだけです。

だから、今タバコを吸い始めていないことに自信を持ってください。一本たった20円のタバコに目をくれなかった君の行動は大正解なのです。そして、この先の人生においてもタバコに手を出すべきではありません。「ニコチン依存症」になっていない君には、わかってもらえるはずです。

毒がいっぱいのタバコにお金を出すなんて。
それを吸うために隠れなければならないなんて。

いったい、何のために……

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 タバコの正体

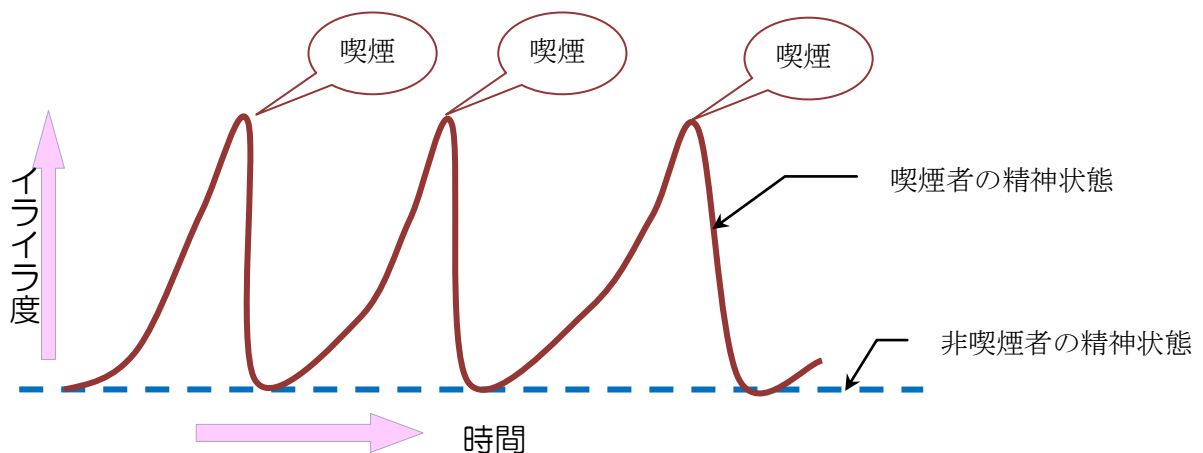
喫煙者たちは、いったい何のためにタバコを買い続け、吸い続けるのでしょうか。

「あなたは、どうして毎日タバコを吸い続けるのですか？」と質問されたら喫煙者たちは、どんな返答をするのでしょうか。

きっと多くの喫煙者は「吸わないとイライラするから」とか、「吸いたくなるから」と答えるでしょうが、中には「タバコを吸うとリラックスできる」と答える人もいます。確かに喫煙者にとって、タバコを吸うとイライラが解消されリラックスした気分になり、あたかもストレスを解消したように感じることでしょ

しかし、この感覚がタバコをやめられなくなる“タバコの罠”なのです。下の図を見て下さい。そもそもタバコを吸わない非喫煙者は、このイライラを感じる事がないのです。タバコに含まれる“ニコチン”と呼ばれる成分がイライラの原因です。喫煙者は体内のニコチンがなくなってくると、イライラしてタバコを吸いたくなります。そこでタバコを吸いニコチンを補給すると、やっと普通の精神状態にもどりストレスが解消されたと勘違いするのです。

つまり、タバコを吸い始めさえしなければ、一生感じなくても済むイライラを喫煙者は毎日、1～2時間おきに感じてしまう訳です。これが“タバコの罠”なのです。



この症状は“ニコチン依存症”と呼ばれ、一旦この状態になってしまうと、ここから抜け出すのは簡単ではありません。こんな事を知らずにタバコに手を出してしまった人は、本当にかわいそうです。

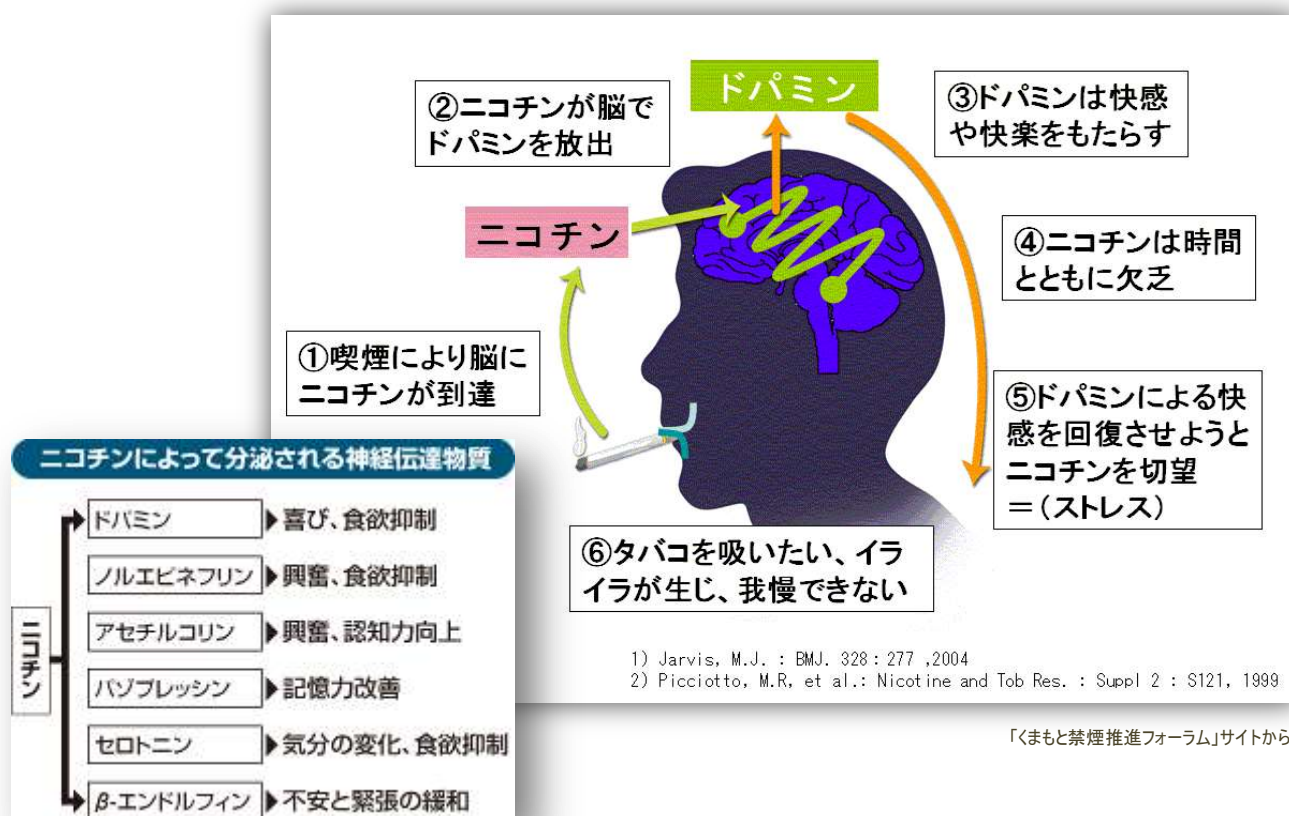
ニコチン依存から抜け出すのは大変ですが、ニコチン依存にならないのは、すごく簡単です。タバコに手を出さなければ良いだけですからね。

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 タバコの正体

一旦タバコを吸い始めてしまうと、“ニコチン依存症”になって、毎日1～2時間おきにタバコを吸わなければならない生活に陥ってしまいます。でもいったい“ニコチン”って、どんな物質なのでしょう。

そもそもニコチンは「毒物及び劇物取締法」で毒物に指定されている物質で、その溶液を直接飲み込んだ場合、成人でも40～60mg(タバコ2～3本分)で致死量に達するそうです。



ノバルティスファーマ「禁煙サポートサイト いい禁煙」から

しかし液体ではなく、タバコの煙とともに体内に取り込まれたニコチンには別の症状が現れます。上の表にあるように、ニコチンは神経に作用し脳内で、いくつかの神経伝達物質を分泌させます。その中でも“ドパミン”は人間に快感や快楽を与え生理的に心地良くさせてしまうわけです。

これが“ニコチン依存症”の実態で、人の心や理性が及ばない深いところで、脳がこの心地良さを求めてしまうのです。だから、心で「タバコをやめたい」と思ってもタバコを我慢できなくなるわけです。こんな状態にはなりたくないですね。

だから、タバコに手を出してはいけません。

週刊 タバコの正体



3月29日、2歳になる息子ブライアン・ジュニアを抱くブライアン・リー・カーチス33歳。

左の写真は、フロリダで幸せに暮らしていた親子です。撮影された1999年3月29日には、息子を片手で抱きあげた精悍な父親のブライアンが映っています。しかし、4月2日に肺がんを発病、下の写真のような姿となり、たった2ヶ月後の6月3日に亡くなりました。5月10日に34歳になったばかりでした。

とても同じ人だと思えませんが、13歳から吸い始めていたタバコが、彼の人生をたった34年にしてしまい、家族から父親を奪ったのです。

これがタバコの現実です。

産業デザイン科 奥田 恭久



たった2ヶ月後の6月3日に亡くなった。

[Photo: Curtis Family]

週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると喫煙者の身体は少しずつダメージを受け、さまざまな病気になる確率が大きくなります。その病気の種類はざっと次の表のとおり。こんなに色んな病気になる可能性があるのです。

がん	肺がん 鼻腔・副鼻腔がん 喉頭がん 口腔がん 咽頭がん 食道がん 胃がん 肝臓がん 膵臓がん 白血病 腎臓がん 腎盂・尿管がん 膀胱がん 子宮(頸)がん がんの早期転移 重複がん
呼吸器	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎 肺気腫) 呼吸機能低下 気管支喘息 急性気管支炎 肺炎 好酸球性肺炎 肺ランゲルハンス細胞肉芽腫症 特発性間質性肺炎 剥離性間質性肺炎 間質性肺疾患関連呼吸細気管支炎 慢性喉頭炎・声帯浮腫 喉頭ポリープ 呼吸細気管支炎 自然気胸 風邪(ひきやすく 長引く)
循環器	不整脈 血圧上昇 動脈硬化 狭心症 心筋梗塞 大動脈瘤・大動脈解離 閉塞性動脈硬化症 バージャー病
脳 神経	脳卒中(脳梗塞 クモ膜下出血) 脳血管性認知症
男性性功能	勃起不全 精子の異常
女性性功能	早発閉経 不妊症 子宮外妊娠

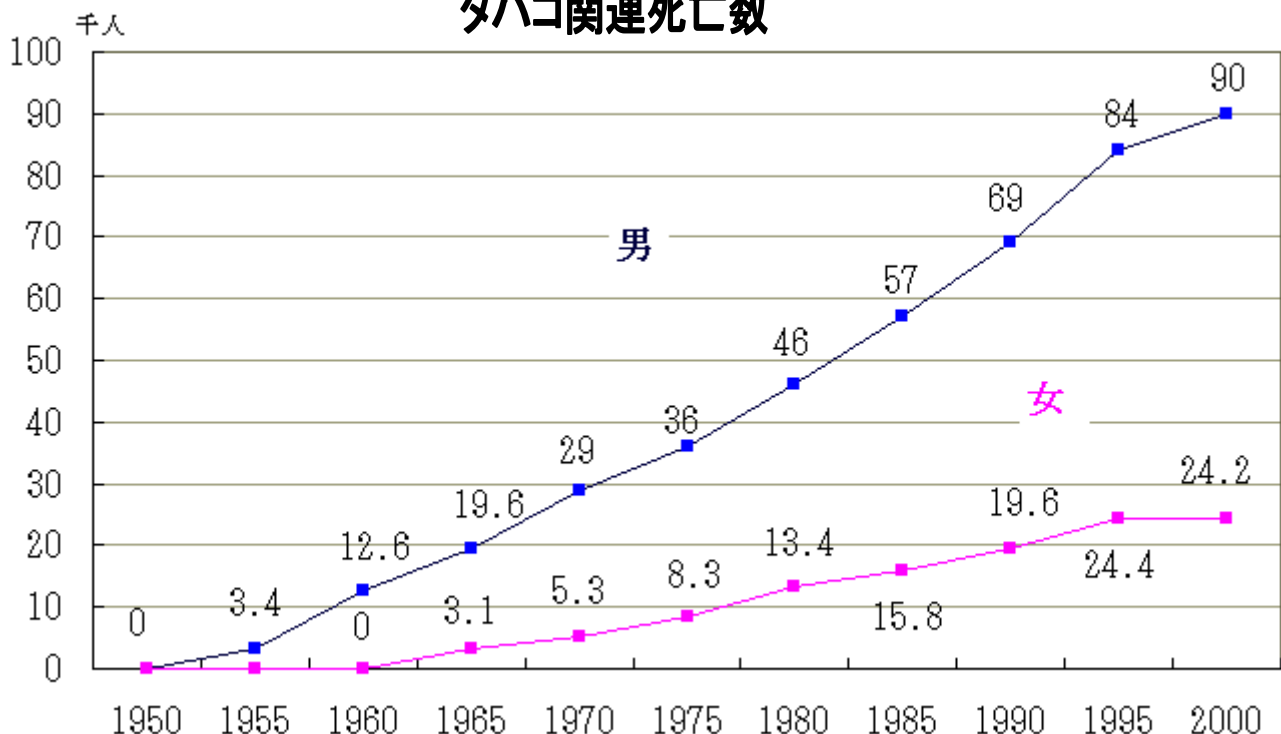
「タバコ病辞典」サイトから

そして、その病気が原因で死亡する人は下のグラフのとおり、男女合わせて年間10万人を超えるまでに増加しています。厚生労働省の人口動態統計によると2000年度の全死亡者は約100万人だそうです。という事は死亡者のうち10人に1人はタバコのせいで亡くなっていることになります。

こんなに多くの命を奪っているのだと思うと、これ以上タバコを吸う人を増やしてはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

タバコ関連死亡数



厚生労働省「最新たばこ情報」サイトから

週刊 タバコの正体

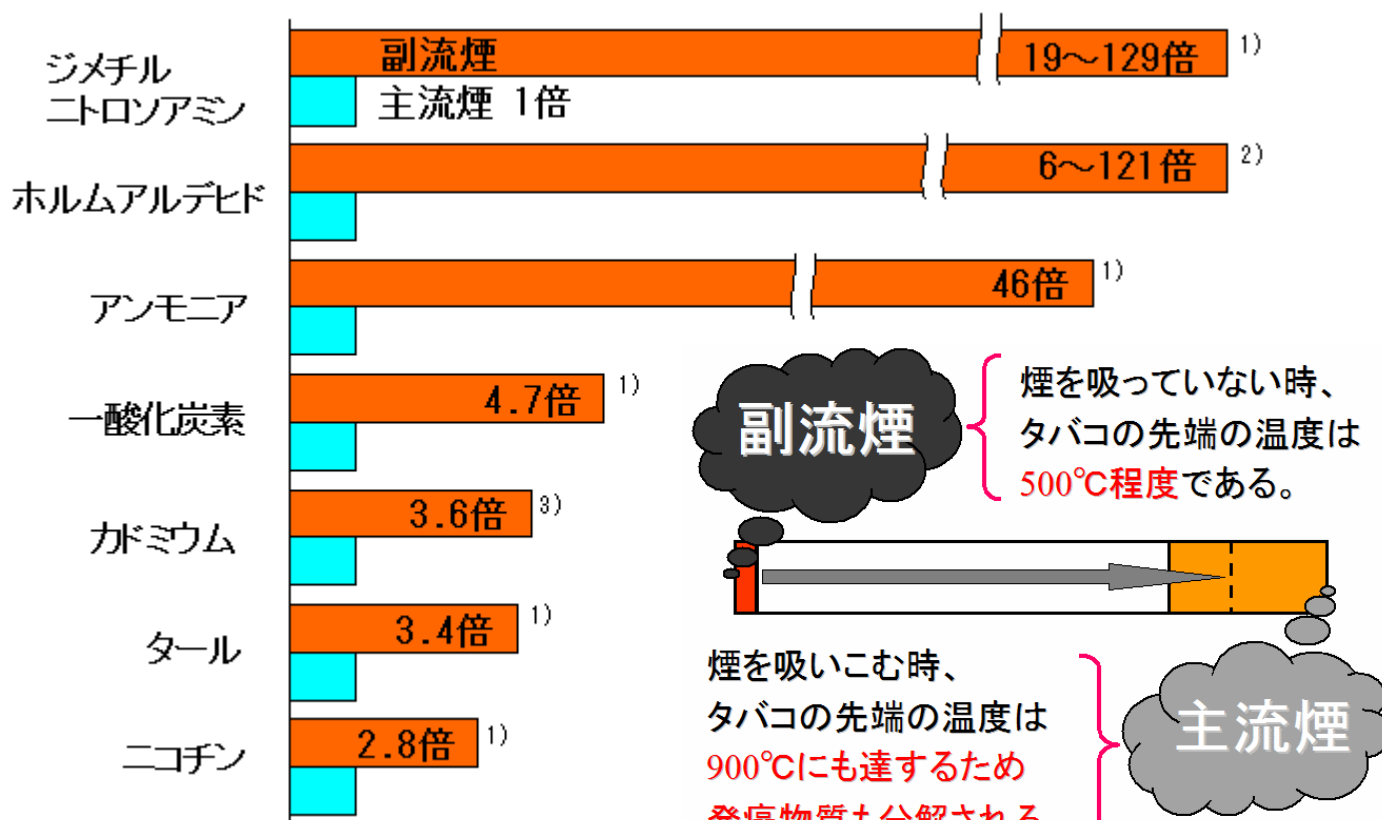
現在、人が集まるような所のほとんどは禁煙で、灰皿は人目に付かない離れた所にしか設置されていません。タバコの煙は人体に有害であるのに加え、そのニオイを不愉快に感じる人が増えてきているので、この傾向はますます加速するでしょう。

そもそも、喫煙者が自分の吸いたい時に所かまわず吸い始めてしまうと、そのまわりの人は、他人のタバコの煙を無理やり吸わされる“受動喫煙”をしてしまうことになります。だから、いろんな場所や施設が禁煙となっているのは当然の成り行きです。

そしてなんと、この無理やり吸わされる他人のタバコの煙(タバコの先から出る副流煙)は、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)よりもかなり有毒で危険だということを知っているでしょうか。下のグラフにあるように副流煙はタバコに火が付いている間、ずーっと低温でくすぶり続ける煙なので発ガン物質のジメチルニトロソアミンなどの有害物質の濃度が驚くほど高いのです。

この事実を知っている人は人少ないので“受動喫煙”を甘く見ている人は多いのですが、本当は「近くで吸わないで」と言うべきだと思いますか。

産業デザイン科 奥田 恭久



1) 最新たばこ情報「主流煙と副流煙」

2) 厚生労働省たばこ煙の成分分析について

3) 厚生省喫煙の生理・薬理：喫煙と健康；48：1992

週刊 **タバコの正体**

火のついたタバコのまわりにいる人は必ず“受動喫煙”をしてしまいます。そしてそのタバコの先でくすぶっている煙には、かなり有害な物質が含まれています。だから、人がいる所で喫煙をすべきではないのです。

ところで、そんな受動喫煙の危険性に関係なく「タバコのニオイはイヤ」という人は案外大勢います。そんな人たちにとっては、タバコを吸っている人の姿は見えなくても、タバコのニオイがすると不愉快な思いをしてしまいます。そう言えば、どこで吸っているのかわからないのに、タバコのニオイがする事はよくあります。

煙やニオイは空気中に拡散すると、予想以上に広範囲に拡散します。風が吹く屋外では風向きによってかなり遠くまで臭う場合もあります。逆に閉ざされた室内では、瞬く間にニオイが充満し、狭い空間では煙で部屋が白く濁る場合もあります。

そして、タバコのニオイは吸い終わった喫煙者の衣服や髪の毛、それに吐く息にも残っているので、喫煙したばかりの人とすれ違ったり、エレベータなどの狭い空間で一緒にいるとイヤなニオイを感じるようになります。また、日常的に喫煙が行なわれている喫煙室などは、部屋中にタバコのニオイがしみついて、タバコを吸っている人がいなくてもニオイが立ち込め、そんな所にいると不愉快どころか頭が痛くなったり気分が悪くなってしまう事さえあるでしょう。

このように、タバコの煙はいろんな所にしみ込んでニオイが残ってしまいます。火の付いたタバコから出る煙を吸わされてしまう事を“受動喫煙”と呼ぶ事はすでに知ってもらいましたが、しみ込んだタバコのニオイをかがされるのも“受動喫煙”と同じようなものです。

じつは、喫煙が常習的に行なわれている部屋の壁、じゅうたん、カーテン、家具などにしみついたタバコのニオイをかがされるのは“残留受動喫煙”と呼ばれていて、煙は消えていてもニコチン濃度は高く健康被害の可能性があるそうです。ちなみに、喫煙者が吸い込むのが“能動喫煙”(ファーストハンドスモーク)、まわりの人がその煙を吸わされる事を“受動喫煙”(セカンドハンドスモーク)、そして、部屋などにしみついたニオイをかがされるのが“残留受動喫煙”(サードハンドスモーク)なのです。

タバコの煙は姿を変え、こんなに長期間にわたって人々の健康被害に影響するのです。だから、見た目はすぐに消えてしまう煙ですが、甘く見てはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 タバコの正体

受動喫煙を防止するためには喫煙を禁止すればいいのですが、喫煙者の立場からすると、「全面禁煙にしなくても、タバコを吸える場所と吸えない場所を分ければいいんじゃないの」と思わずにはいられないでしょう。他人のタバコの煙を無理やり吸わされなければ受動喫煙にはならないのだから、この方法でもいいような気がします。この方法を“分煙”と言い、実際に喫煙席と禁煙席を分けている飲食店もあります。

ところが、吸える場所と吸えない場所を分けただけで受動喫煙を防ぐことはできません。例えば、下の写真を見て下さい。喫煙席と禁煙席の間に簡単な間仕切りを立てただけでは、煙もニオイも防ぐことはできませんよね。それどころか、間仕切りを挟んだ隣の禁煙席側ではまともに受動喫煙を受けることになります。



だから、きちんと分煙を実現するためには、タバコの煙やニオイが漏れない密閉した喫煙者用の部屋を用意しなければならないのです。

ところが、大半の飲食店は、店内に喫煙室用のスペースを確保するのが難しく、そのうえ設置費用がかかるので、とりあえず写真のような措置をとっている店もあるのでしょう。

そのような飲食店がある一方で、「健康を害するタバコのために、わざわざ費用とスペースをかける必要はない」とする動きも増えつつあります。つまり、分煙ではなく禁煙とすれば費用もかからずスペースを有効利用できるうえ、タバコの煙とニオイがしない気持ち良い空間にできるという訳です。いかがでしょうか。飲食店を利用する客の立場では、“分煙”と掲げられている店よりも“禁煙”と表示されている方が安心できますよね。

じつは、このような状況は飲食店に限った話ではありません。例えば、もし学校の敷地内が“分煙”だったとしたら、タバコの煙やニオイが気になり穏やかに学校生活が送れないでしょう。仕事場などでも同じだと思います。タバコを吸える“分煙”は、結果的にはタバコを吸ってもらう場所を提供しているのと同じです。これからの時代は、人々の健康を害するタバコを吸ってもらう環境より、吸わせない環境が必要だと思います。

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 タバコの正体

現在、建物や屋内における受動喫煙をなくす対策は全国の様々なところで進んでいます。だから、大型施設や公共の場所では、タバコのニオイを感じる事がほとんどなくなっています。ところが案外、道路や公園などの屋外でタバコの煙やニオイを感じる事がよくあります。

そう言えば、指にタバコを挟んだままの“歩きタバコ”や、信号待ちでの喫煙はよく見るシーンです。さらには、車内の窓から火の付いたタバコを持った手を出して運転している人もよく見かけます。屋外におけるタバコの煙はすぐに遠くまで流れてしまうので、消えてしまう印象がありますが、その分、広い範囲にタバコのニオイをもたらし、そのあたり一帯をタバコくさくしてしまいます。

じつは、人が多い都会ではそんな状況を改善するため、条例で路上喫煙禁止区域を設定しているところがたくさんあり、たとえば下図にある東京都千代田区は、なんと区の全域が“路上喫煙禁止”なのです。その面積は約9km²で、和歌山県の太地町(約6km²)よりも広いのです。

「町全体の路上が禁煙」という場所が存在する時代になってきています。

産業デザイン科 奥田 恭久



千代田区「生活環境条例」サイトから

週刊 タバコの正体

毎年6月4日～10日は「歯の衛生週間」だという事を知っているでしょうか。虫歯予防が大きな目標だったことから、6(む)4(し)にちなんで50年以上前からこの時期に実施されています。

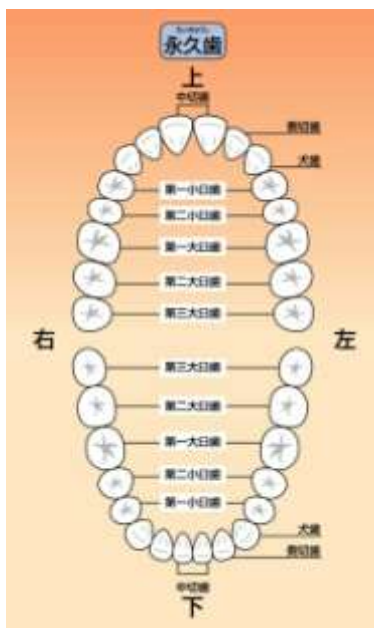
健康の基本は「食事・運動・睡眠」のバランスが重要ですが、「食事」をするには健康な歯が必要です。歯は硬くて丈夫な反面、こどもの頃に生えかわった”永久歯”は一度なくなってしまうと二度と生えてきません。その永久歯は上下あわせて32本です。高校生の皆さんは図のように全部の歯が揃っているでしょうが、何十年も毎日の食事をしていくと年齢とともに虫歯や歯ぐきが弱るなどの影響でだんだん減っていきます。美味しく食事ができ健康な生活を送るために「8020」運動(80歳でも20本の歯を維持しよう)という啓発活動もあるぐらいです。

ところが、タバコは歯に大きなダメージを与えます。硬く丈夫な歯がタバコの煙で壊れるわけがないと感じるはすですが、歯を支える歯ぐきがやられていきます。喫煙によって歯周炎が進行すると左下の写真のようになってしまいます。

そして、喫煙者の歯と歯ぐきは、タバコを吸うたびにニコチンやタールの影響で、茶色ぽくなったりや黒くなり、外見上の印象も悪くなります。

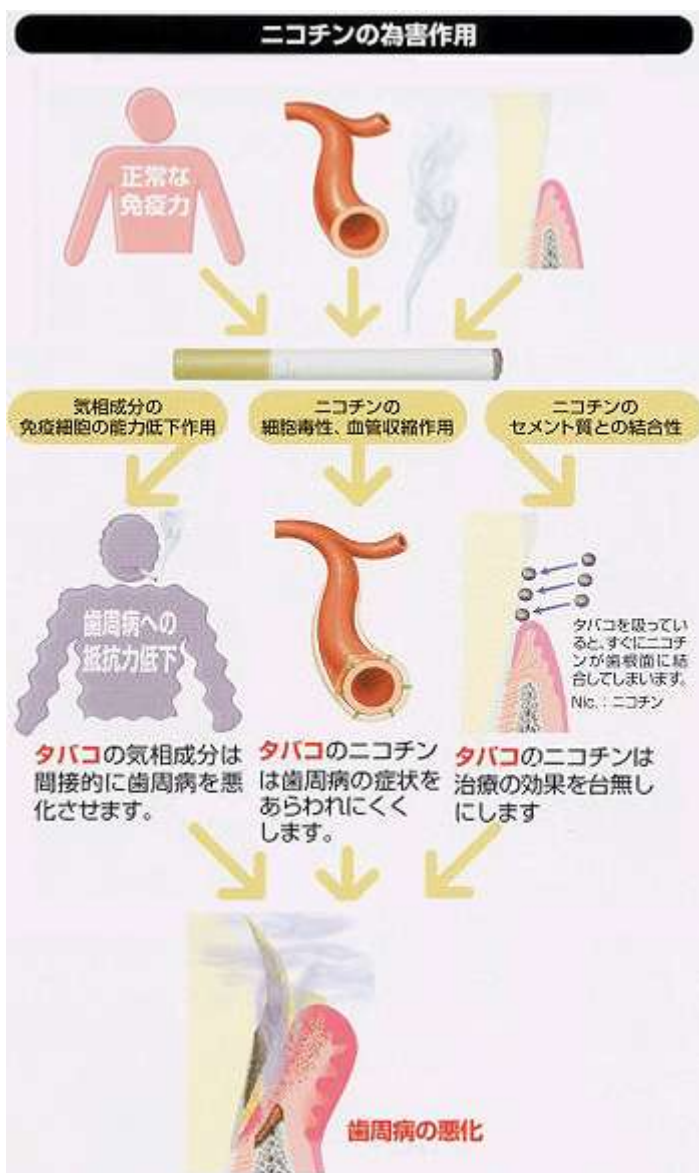
タバコの手で影響を受ける健康被害のうち、外見上一番目立つの“歯”なのです。

黒い歯ぐきと黒い歯なんて、イヤですよ。



喫煙者の重度歯周炎
おど歯科クリニック HP から

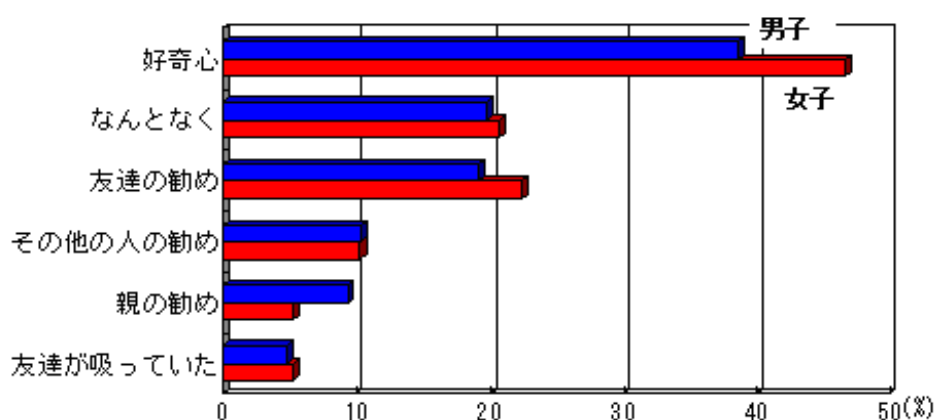
産業デザイン科 奥田 恭久



週刊 タバコの正体

タバコ吸うのはカッコ悪いのに、お金も時間も健康も無駄遣いをしているだけで、全く百害あって一利なしです。さらに、法律で禁止されている君たち高校生の喫煙は、見つければ謹慎などの指導を受けて学業や学校生活に大きな不利益をこうむります。それなのに、タバコを吸い始めニコチン依存症になってしまう中高生は、なかなかなくなりません。

はじめて喫煙した動機



はじめて喫煙した動機ははっきりしません
「好奇心」、「なんとなく」が最も多い

厚生労働省編、喫煙開始に関わる要因：喫煙と健康 295,1992

左のグラフを見て下さい。どうしてタバコを吸い始めてしまうのかを調査した結果です。その動機は、はっきりしないようですが、「好奇心」や「なんとなく」が多いようです。

「タバコなんて百害あって一利なし」だと知っていれば、タバコに好奇心が湧くでしょうか。皆さんはどう思いますか。

知っていて、あえてタバコを吸い始めてしまうほど、タバコに魅力はあるのでしょうか。「なんとなく」タバコを吸い始めたためにニコチン依存症になってしまうと、学校生活をしている間は見つからないように隠れ続けなければならないうえに、発見されれば多大な不利益をこうむるリスクを背負い続けなければいけないのです。

そして、そのまま大人になっても喫煙するためには、遠く離れた喫煙所までタバコを吸いに行かなければならない面倒くさい毎日が待っているだけです。

ただ「なんとなく」好奇心から吸い始めた、たった一本のタバコが毎日の生活を、とても窮屈で不便なものにしてしまうのです。うかつに「なんとなく」タバコに手をだした代償は大きくなる事を、心の隅に置いて忘れないで下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 **タバコの正体**

7月になりました。3年生の皆さんにとっては、そろそろ卒業後の進路を決める時期に入りました。というのも企業からの求人票の受付が開始されるからです。求人票とは、来年の4月に採用を予定している人数や仕事の内容、それに給料などの待遇が記載されている書類の事で、和工の卒業生を採用したいと考えている会社が、求人票を本校に送ってきてくれるわけです。

就職を希望している3年生は多くの求人票をよく読み、その中から自分が就職したいと思う会社を選ぶわけですが、「この会社に行きたい」と考えても、入社するには会社の採用試験に合格しなければなりません。その会社の色々な基準や条件を満たしていなければ採用してもらえませんからね。

さてじつは、そんな採用条件に「タバコを吸うか、吸わないか」を組み入れている企業が増えているのです。その理由を考えてみましょう。

例えば、それぞれ15人の社員を抱える同じ業界のA社とB社があったとします。15人の社員の技能や年齢構成、また会社の設備などもほぼ同じだとします。違うのはA社の社員は誰もタバコを吸わないのに対し、B社は5人の喫煙者がいる事だけだとします。

B社は、喫煙場所を用意しなければなりません。まさか、5人の喫煙者のために同じ職場でタバコを吸わせるわけにはいきません。10人のタバコを吸わない人に受動喫煙をさせる事になりますからね。そして5人は、一日に5回程度は職場を離れ喫煙所へタバコを吸いに行くとすると、1回に最低5分かるとして、毎日(5分×5回×5人=)125分(約2時間)は、作業時間をロスしている計算になります。

一方、A社は喫煙場所もいらないうえに、毎日B社より2時間分多く作業をこなすことができます。

たかだか一回5分ですが、1日2時間、1週間で10時間、1ヶ月では40時間、1年になると480時間もの開きとなります。480時間を一日8時間労働で単純に考えると、一人が60日間、仕事を休んだのと同じです。つまりB社は、毎年2ヶ月間、一人少ない社員で仕事をしていると言えるのです。これではA社にかないません。喫煙者を多く採用すると、競争力に影響してしまうのです。

このように考える会社ばかりではありませんが、世間の風潮は着実に「喫煙者は不利」な状況になっています。高校生の君たちが喫煙者かどうか採用条件に入る訳はありませんが、そんな時代の流れのなかで将来においても、あえてタバコを吸い始める気にはならないはずです。

産業デザイン科 奥田 恭久

週刊 タバコの正体

タバコは有害で、吸わない方が身のためだと考えている人が多くなり、喫煙率は低下し続けています。君たちのように最初からタバコを吸い始めない人が増えているのに加え、「禁煙外来」と呼ばれる禁煙治療をうけられる病院で禁煙する人も着実に増加しているからです。

ところが、一方でコンビニでは左下の写真のようにレジの一番目立つところでタバコを販売しています。まるでタバコが目玉商品のような扱いです。人々の健康を害し命さえも縮めるような商品を、どうしてこのような目に付くところで大きく販売しているのでしょうか。

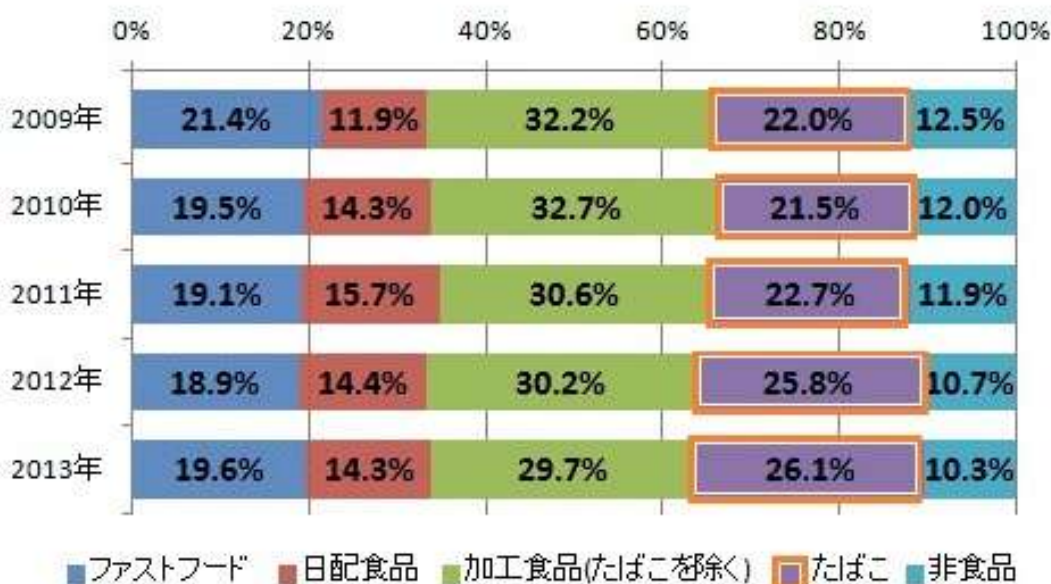
じつは、右下のグラフを見て下さい。なんとタバコはコンビニの主力商品なのです。売上の四分の一がタバコだとは驚きですが、そんなに売れるのだから売り場面積が大きくなるのも理解できます。つまり「タバコは売れる商品だから、目立つところで販売している」という事なのではないでしょうか。

タバコを買うのは、ほとんどがニコチン依存症となっている人たちです。ニコチン依存症になると、常に手元にタバコが必要です。そんな人たちにとって、24時間営業のコンビニでタバコが買えるのは便利で有難い状況なのかもしれません。

でも、人々の健康を尊重すれば、タバコは売れない方が良いでしょう。君たちを含め若い世代がタバコを吸い始めなければ、いつか「タバコなんか売れないよ」と言われる時代がくるはずですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久

商品群別売上高構成比率推移
(連結・チェーン全店、ローソン)



週刊 タバコの正体

タバコは有害なのに“売れる商品”です。前回紹介したように、コンビニの売り上げの26%も占めているのですから、タバコなしでは経営が苦しくなるかもしれません。日本たばこ協会の発表によると昨年(平成25年度)1年間の全国の販売本数は1969億本だったそうです。1箱20本だとすると約100億箱です。これを365日で割って1日当たりになると、毎日約2700万箱も売れている訳です



さて、上の写真はオーストラリアのタバコです。タバコは売れない方がよい事は世界の常識なので、オーストラリアでは、タバコの銘柄に関係なく、「タバコは有害」である警告画像が入ったこのデザインでなければ販売できません。しかも一箱1000円以上もします。

一方、左下の図は日本のタバコのデザインの決まりで、実物は右下の写真のとおりです。しかも一箱410円です。一見して「タバコは有害」だとはとても思えません。タバコは“売れる商品”だから、これで良いのでしょうか。

世界の潮流から見れば、「日本は国自体が、タバコに依存している」と思われていないでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久

